

国登録記念物の登録及び国史跡の追加指定について

史跡等の指定「徳島県関係分」について

教育文化課

1. 答申の概要

文化審議会（会長 馬淵明子）は、平成29年6月16日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、別添資料のとおり、2件の徳島県関係登録・追加指定物件について、文部科学大臣に答申を行いました。

○登録記念物の新登録

「南海地震徳島県地震津波碑」

徳島市1基（おきのすえび す じんじやひやく ど い し 沖洲蛭子神社 百度石）

小松島市1基（あかいしとようらじんじやせきひ 赤石豊浦神社石碑）

阿南市3基（つばきはちまんじんじやじょう や どう 椿八幡神社 常夜灯，他）

那賀町1基（な か み よ う ほう じ こ う し ん とう 那賀 妙法寺 庚申塔）

美波町2基（し わ き し ん さい ひ 志和岐震災碑，他）

牟岐町4基（て ば じ ま か ん え い じ 出羽島観栄寺（旧・新碑），他）

海陽町7基（あさかわみ さ き じん じ や せ き ひ 浅川御崎神社石碑（旧碑），他）

以上3市4町 19基

○国史跡の追加指定

「勝瑞城館跡」

所在地 藍住町

2. 南海地震徳島県地震津波碑について

①平成28年度の調査の結果、39基の碑の存在を確認し集成した。碑の分布は県南部の海部郡から北は板野郡松茂町に及んでいる。過去に南海地震の津波によって大きな被害を受けてきた海陽町では16基所在し、そのうち浅川地区に13基が集中している。牟岐町で6基、美波町と阿南市でそれぞれ5基、小松島市4基と県南部に多い。この他、徳島市、松茂町、那賀町にそれぞれ1基所在する。

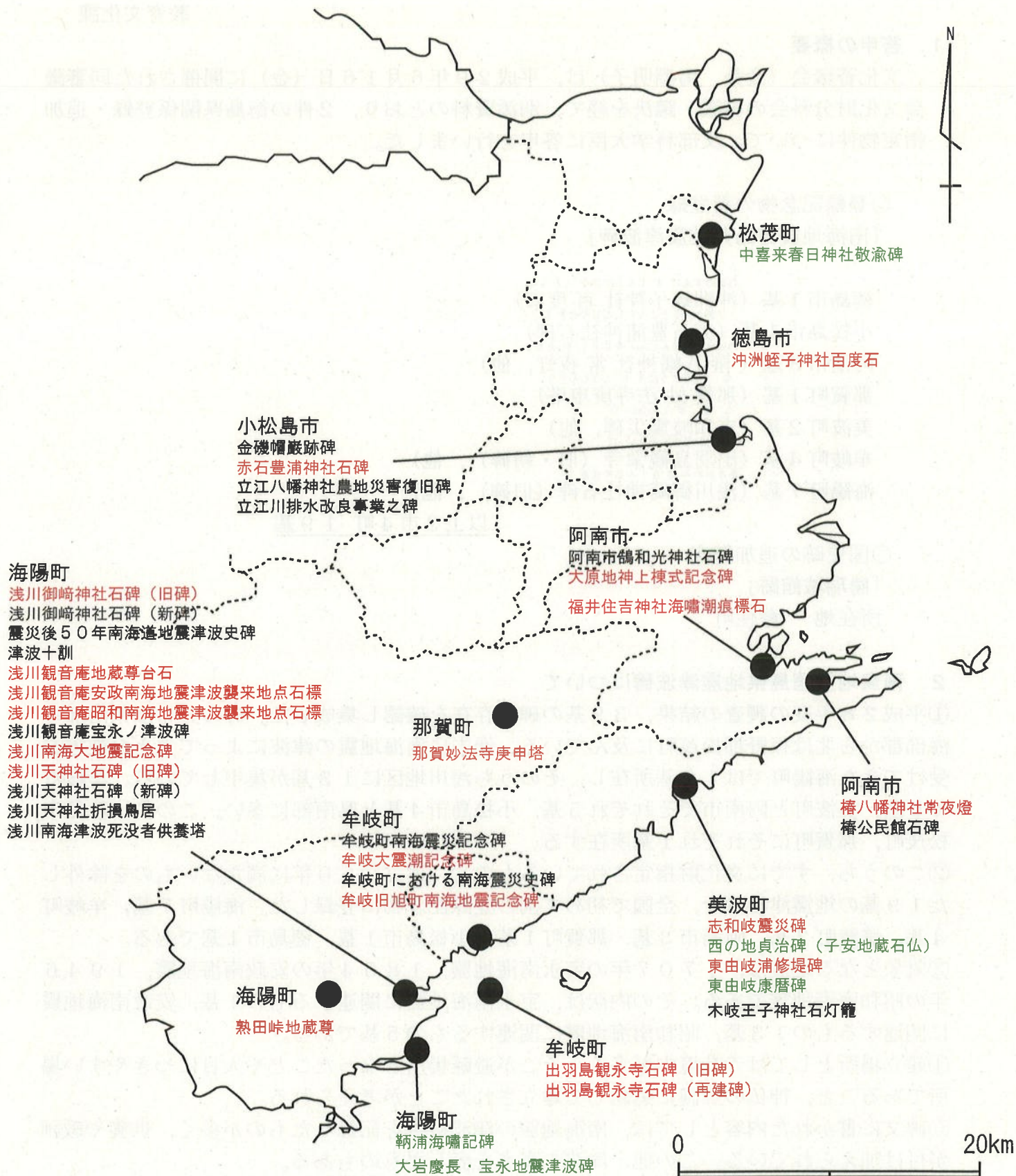
②このうち、すでに文化財指定されているものや、建立後50年に満たないものを除外した19基の地震津波碑を、全国で初めて国の登録記念物に登録した。海陽町7基、牟岐町4基、美波町2基、阿南市3基、那賀町1基、小松島市1基、徳島市1基である。

③対象となる地震は、1707年の宝永南海地震、1854年の安政南海地震、1946年の昭和南海地震である。その内訳は、宝永南海地震に関連するもの1基、安政南海地震に関連するもの13基、昭和南海地震に関連するもの5基である。

④建立場所としては寺社境内が多く、そこが避難場所となったことや人目につきやすい場所であること、神仏の加護に感謝して建立されたことが考えられる。

⑤碑文に書かれた内容としては、南海地震の津波被害を記録したものが多く、供養や教訓が付け加えられている。この他、津波の高さを表したのものもある。

⑥これらの地震津波碑は、地域における文化遺産として、あるいは防災教育の教材として後世に伝え、活用を図っていくべきものである。



赤:今回登録されるもの
 緑:町指定

南海地震徳島県地震津波碑分布図



あかいし とよら じんじや せきひ
赤石豊浦神社石碑

(小松島市赤石町)

安政南海地震（1854年）では津波で多くの被害があつたが、小松島豊浦では、この神社に集まって難を逃れたとある。

建立年月日：不詳



あさかわ かのん あんじぞうそん だいいし
浅川観音庵地藏尊台石

(海部郡海陽町浅川)

観音庵内にある地藏尊の台石に、宝永地震津波（1707年）の記述がある。建立年代が確認できる津波碑としては、県内最古である。

建立年月日：正徳2（1712）年7月



あさかわ みさき じんじや せきひ
浅川御崎神社石碑（旧碑）

(海部郡海陽町浅川)

御崎神社に隣接する千光寺に、安政南海地震（1854年）の状況と教訓が書かれた扁額がある。その内容を石碑にしたもの。現在、風化により碑文が見えづらくなっているため、新碑が建てられた。

建立年月日：明治34（1901）年11月



あさかわてんじんじやせきひ
浅川天神社石碑（旧碑）

（海部郡海陽町浅川）

安政南海地震（1854年）の当日の状況が詳しく書かれている。碑文の状況は良好だが、境内に新碑が建てられている。

建立年月日：慶応3（1867）年4月



おきのすえびすじんじやひやくどいし
沖洲蛭子神社百度石

（徳島市南沖洲）

安政南海地震（1854年）について、「火の元に心をつける事肝要」などの教訓が3面に書かれている。現在、2面は完全に剥がれ、一面のみに碑文が残る。

建立年月日：文久元（1861）年9月

〔平成15（2003）年3月3日移転〕



ひがしゆきうらしゆうていひ
東由岐浦修堤碑

（海部郡美波町東由岐）

大正元（1912）年の暴風雨で起きた高波で、壊れた堤防を修復した記念に建てたもの。碑文の前半には、安政南海地震津波の状況について記される。

建立年月日：大正2（1913）年9月

3. 勝瑞城館跡について

①徳島県の中世遺跡を代表する「勝瑞城館跡」は、戦国時代に阿波国の実権を掌握した三好氏によって築かれた居館跡（勝瑞館跡）と城郭跡（勝瑞城跡）、寺院跡（正貴寺跡）の総称であり、平成13年に国史跡に指定されている（平成19年、平成26年に追加指定）。

②勝瑞は、室町時代後半に阿波国守護の細川氏が守護所を置いた地であり、戦国時代には、三好氏の城下町として繁栄した。戦国時代末期に土佐の長宗我部氏の侵攻を経て、天正13年（1585）に蜂須賀氏の入国により政治経済の中心が徳島に移されるまでのおよそ100年間、阿波の政治経済の中心として発展した。

③当時の勝瑞には、文献（『阿州三好記大状前書』など）によると30を超す寺院が建ち並び、勝瑞城館や周辺の町屋、港湾などとともに「守護町勝瑞」と呼ばれる一定の町を形成していたと考えられる。

④今回、追加指定される箇所は、平成13年1月に史跡指定された「勝瑞城跡」の濠の南側にあたる部分である。これにより、一体の史跡として保存・保護を図ることが可能となる。



勝瑞城館跡全景

